

第573号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2016年12月16日
 発行責任者 喬木村公民館 長 藤 美 穂
 編集責任者 公民館 編集部 長 志 久 田 仲
 印刷 龍共印刷株式会社

第3回平和学習会

「平岡ダム・飯島発電所と外国人労働者」

平和学習実行委員会

今回の学習会で講師をお願いしたのは、長年に渡って地域の戦争遺跡を調査研究してこられた原英章先生です。

戦後長い間埋もれていた出来事について、地元の方々への聞き取り調査や、中国・韓国に渡っての調査、資料の掘り起こし等を通じて分かってきました。残されていた当時の写真や体験者の言葉は強い説得力を持って私たちに迫ってきました。

平岡ダム(天龍村)も飯島発電所(飯田市南信濃)も現在稼働中の発電施設です。戦争が始まると国内の労働力不足を補うために、県内だけでなく数十か所の建設現場で中国人、朝鮮人、連合国軍

俘虜など多くの外国人労働者が強制労働をさせられたそうです。

戦争は被害を受けた国はもちろん、加害者となった国の中にも、広く深く影響を与えてきたので、それ全部が「戦争」なんだと思

いました。

最近では松代大本営・無言館から満蒙開拓平和記念館を見学して、平岡ダム・飯島

発電所を訪れる県外の方が少しずつ増えているそうです。

私達も地元に住む者として

是非見学させていただきたいと思



天龍村 平岡ダム

「黒い星」ものがたり 43

『黒い星』 久保田 毅

黒い星は、おどろきと、いかりと、おそれの、大きなほえ声をたてると、いっせいに岩山を駆けぬけて、…にげのびま

「山の大将」その六一
 昭和四十四年十一月

黒い星は、おどろきと、いかりと、おそれの、大きなほえ声をたてると、いっせいに岩山を駆けぬけて、…にげのびま

黒い星は、おどろきと、いかりと、おそれの、大きなほえ声をたてると、いっせいに岩山を駆けぬけて、…にげのびま

黒い星は、おどろきと、いかりと、おそれの、大きなほえ声をたてると、いっせいに岩山を駆けぬけて、…にげのびま

高木村総合文化祭

「高木力結集！ 村の魅力を最大化しよう!!!」

十一月十九日・二十日の二日間(作品展示は十一月十八日より三日間)、恒例の高木村総合文化祭が、今年メイン会場を交流センターに移し行われました。

作品展示は例年通り中央社会体育館を会場に三十六団体、芸能大会は交流センター前の特設ステージを会場に十団体、いよいよ物産市には三十三団体の皆さんにご参加いただきました。

公民館社会部では作品展



交流センター前 特設ステージにて

【変更のお知らせ】中央社会体育館の使用制限について

先月の公民館報にて中央社会体育館の使用制限のお知らせをいたしました。使用制限の期間が変更になりましたのでお知らせいたします。ご迷惑をおかけいたしますがよろしくお願ひします。

期間 十二月一日から
 一月三十一日

理由 工期の変更による
 二月二十八日
 ※工事の進捗によって今後変更が生じる場合があります。

大歓迎ですのでご参加をお待ちしております。
 ご来場いただいた皆様、ご参加いただいた各団体、文化祭運営にご協力いただいた皆様のおかげです。素晴らしい文化祭となり感謝申し上げます。

あの時

今年も後僅かになりましたが、良い一年になったでしょうか。十二月八日は真珠湾攻撃から太平洋戦争が始まった日です。

昭和十六年十二月八日。あの日こそ我が国が一生忘れられない日だ。この日我が国の平和的交渉に、あらゆる妨害を与えてきた米英両国と、我が大日本帝国とが交戦状態に入ったのだ。

時に午前六時、我が国民の血は沸き立つばかり。続いて同日十時半、畏くも大元帥閣下より宣戦の大詔が下され、国民は謹んでこれを拝聴し、士気いやが上にもあがった。(中略)

ああ、あの日の感激こそ我が人生涯決して忘れることはできない。あの日の感激を常に念頭から逃さずますます義勇奉公の誠を致そう。

この作文は伊那市の手良国民学校高等科二年の子供の書いたもので、現在の中学二年生に当たります。

この作文を読むと、当時の日本人の多くは何の疑いもなく詔は絶対であり、戦争に入っても滅私奉公するものと信じていたことが分かります。

軍国主義教育の徹底と報道統制の恐ろしさを改めて感じざるを得ません。

現在の北朝鮮に関するさまざまな報道に、何ぞ今の時代に、粛正や個人崇拜が行われ、戦争のための軍備が拡大されていくのか、なぜ北朝鮮の国民はその愚かしさに気づかず、権力者打倒に立ち上がらないのか、日本人のほとんどは奇異に感じていると思ひます。しかし今から七十数年前、当時の日本も諸外国からは奇異な国として映っていたに違いないです。

今年、アメリカではトランプさんが大統領に当選し、イギリスのEU離脱など、あちこちで国家主義の傾向が強まり、かつてのファシズムやブロック経済の様なきな臭いにおいが漂ってきます。

国家という権力に振り回されることなく、平和な社会を築くため、私たちはどうすればいいのか、私たちがどうすればいいのか、改めて歴史に学びたいものです。

来年が平和で穏やかな一年になります様に。



「黒い星は、おどろきと、いかりと、おそれの、大きなほえ声をたてると、いっせいに岩山を駆けぬけて、…にげのびま

「黒い星は、おどろきと、いかりと、おそれの、大きなほえ声をたてると、いっせいに岩山を駆けぬけて、…にげのびま

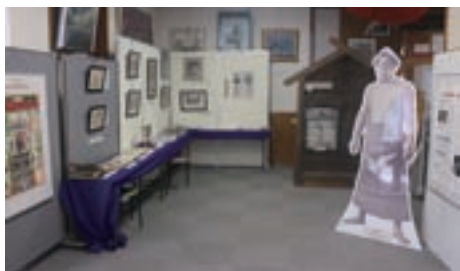
「黒い星は、おどろきと、いかりと、おそれの、大きなほえ声をたてると、いっせいに岩山を駆けぬけて、…にげのびま

「黒い星は、おどろきと、いかりと、おそれの、大きなほえ声をたてると、いっせいに岩山を駆けぬけて、…にげのびま

2016 今年の 村のニュース

1 名力士「高登閣」特別展の開催

七月から十一月まで、喬木が産んだ名力士「高登閣」の特別展が開催されました。親交のあった方々より貴重な写真帳やサイン帳、手紙など、伊久間の諏訪神社からは大山親方寄贈の優勝カップや写真をお借りし、展示しました。



来場者も三ヶ月間で三百人を越え、通常年間来場者数の半数を記録しました。

3 コミュニティバス 発着点整備事業

村では国の地方創生加速化交付金を活用し、交流センター前広場の整備を行いました。

平日はコミュニティバス、広域バス、村民バスの転回待合いのスペースとして、休日はイベント会場として多目的に活用できるよう考えられています。これに活用した土曜日の学習支援も行われる予定です。

今後ICT活用教育の推進により子ども達がどのように変化するか見守っていきたくと思います。

4 中体連県大会3位!! 喬木中野球部歴代最高位

七月十六・十七日に開催された中体連長野県大会において、喬木中学校野球部は史上初の三位という好成績を収めました。



東信・北信の強豪校を相手に勝利を重ね、名門丸子北中学校と準決勝で対戦し、一対二で惜しくも敗退しましたが、最後まで諦めることなくチーム一丸となつて戦い抜きました。

6 北の明神社御柱祭

今年には七年に一度の御柱の年で、諏訪大社をはじめ、明神社を祀る地域では巨木を山から伐り出して社殿の隅に立てる「柱立て」の行事が古式により実施されました。

北地区では、今年の四月四日に御柱を行いました。北の御柱は「柱立て」ではなく、生木の寄進を仰ぎ、それを曳行して神木として植樹してきました。今回は阿島区より二本の檜を寄進していただき、根回し、山出しを数日前に行い、当日は曳出しと植栽を大勢の人でにぎやかに盛大に行うことができました。

7 楽遊塾第三講座 蓮池薫氏講演会

七月二十四日、公民館楽遊塾第三講座として蓮池薫氏講演会を行いました。

蓮池さんは一九七八年に拉致されてから二十四年間、北朝鮮での生活を余儀なくされました。今回の演題の「夢」という言葉には、自分の将来の夢や、ごくあたりまえの自由全てが奪われたこと。「絆」という言葉には、自身の家族への思い、また今も帰ってこないことのできない拉致被害者の方達への思いが込められていました。蓮池氏の拉致を忘れないでという思いを受け、私達にできる事は、この事実を忘れずに、みんなが帰れるようお願いすることだと思います。

8 椋鳩十記念図書館に「ネコ館長ムクニヤン」就任

一月二十二日に椋鳩十記念図書館に迷い込んできたネコが、利用者たちの声により、「ネコ館長」となることが決まりました。



四月一日、大原記念館館長より「人事通知書」ならぬ「猫事（ニヤンジ）通知書」が渡されました。

5 テニス中学生団体戦で 喬木中が県3位に!

九月二十二日の秋分の日、松本市信州スカイパークテニスコートで二〇一六年全国選抜中学校テニス選手権長野県予選大会団体戦が行われ、喬木中が見事県三位に輝きました。



大会は対戦校とダブルス二試合、シングルス一試合を行い、二試合を勝った学校の勝利となる形で、予選リーグでは三戦全勝で予選首位通過を果たしました。

喬木俳句クラブ 霜月旬会

霧深き道を迎れば人の声
落葉掻き風のまにまに吹き上がり
松茸の城を目指すや二本杖
吊し柿八十路の夫の手を借りて
木犀花二度散り敷きて香を残し
風鈴の音廃屋に荒るる風
雨に濡れ楢見送る姫椿
萎えし身の父の帰宅や小春空

田中 君子
村上たか子
秦 恭子
松葉 孝子

山茶花の疎らに咲きて留守の家
稜線を茜に染めて月上る
コスモスの日毎に美しき残り花
陽に映ゆる伊那谷秋の深みゆく
老ゆるとはハグになじめぬ枯すすき
米びつに光を入れて帰郷待つ
松茸山指呼に閉ざせし分校舎
さりげなく掃かれて蟬の屍も混じる

小林 カツ
原 美恵
砂場 文子
松尾萬里子
吉川てる子
本山 栄信

編集後記

今年も残すところあと少し。新年へのカウントダウンが続く。今年には熊本地震があり、平穏な生活と尊い命が奪われた。生活基盤が幾度も破壊され、その度に災害から立ち

直るべく人知を結集し復興にあたり、挑み続けた年であったように思える。来年は四年。どんな年になるのだろうか。しっかりと災害に備えるとともに、新たな年に希望を寄せる。

